

り組みを進めたい。

**問** たとえば大阪市では、通塾助成や、幼児教育を、28年度に5歳児、29年度に、4歳児を無償化とする。これは乾いた雑巾を絞るような改革を實現した事例だと思うが、本市へ移住したくなるような取り組みは。

**答** 『橿原市版C C R C（生涯活躍のまち）』構想を策定し、都市圏からのアクティブシニアを中心とした人口の環流による移住者の増加を目指したい。奈良県は京都ほど整備が進んでないことが、特に首都圏在住の歴史ファンに好印象であることや、大阪等への通勤圏で、子育て世代を含む若い世代からもアンケート調査で一定の評価を得ており、移住先への可能性を感じている。移住促進に必要な体制づくりを進め、子育てや住宅支援など、移住者のニーズに応じた事業展開を検討したい。大阪市の事例は、本市では行っていないが、現市民の公平性にも配慮する必要があるため、今後の検討課題としたい。

## ふるさと納税

**問** ふるさと納税の取り組みと結果と現状は。

**答** 本市は「誇れる郷土・かきはら応援寄附金」として、ふるさと納税の制度創設から一貫して、総務省の指針に従い、返礼品は華美にならない範囲で取り組んできた。これまで確定申告のワンストップサービスや控除範囲の拡大など改正され、本市も、返礼品メニューの改善など取り組んできたが、成果は厳しい状況で、27年度は7件、21万5千円、今年度はこれまでに、21件、55万4千円である。

**問** 大型事業が控える中で、納税や収益を増加させる努力が必要だが、本市のふるさと納税の考えは。また、返礼品の商工会議所などの連携は。

**答** 返礼品は、豪華な品や商品券等の換金性の高い品を送る自治体もあるが、総務大臣からは、本来の趣旨から外れており問題であるとの発言もあった。最近では、返礼品を廃止する自治体もある。本市はこのような過当競争には加

わらない方針である。特産物を返礼品にすることで、中小事業者などの売上げや地域経済の活性化に一定の効果があり、制度自体が確立しつつある。本市の魅力を大都市圏の方に知ってもらえる絶好の機会であるため、従来の公共団体としての節度を保ちつつ、本市が積極的に取り組む姿勢を見せることで、新たな商品開発も生まれてくる。商工会議所、物産協会等とは密接に連携しながら、ふるさと納税の増加に前向きに取り組みたい。



**問** 来年には八木駅前ホテルがオープンするが、その宿泊券や割引券も考えられないか。

**答** 本市は、返礼品だけでなく、経験に重点を置いた返礼にも取り組みたい。土産物だけではなく、体験ツアーなど、本市のオンリーワンを味わってもらいたい。本市は中南和の中心都市、紀伊半島の玄関として、このような体験事業

は、周辺市町村とも連携し取り組んで行きたい。

## 一般質問 奥田 英人 (自由民主党)

### 野生動物

**問** 野良猫等への餌やりは動物愛護の面で大変すばらしいことだが、反面、異常な繁殖や飼い主のいない動物の増加により、将来的に必ずしもよい方向でないとと思われる。病気や事故で亡くなる動物もたくさんいるが、京都市のような条例、罰則は何か考えているのか。

**答** 野良犬は、不明情報やうつつき情報があれば、狂犬病予防法により保健所によって捕獲される。猫は飼い猫と野良猫の区別が明確でなく、捕獲等に関する法的根拠がないため、法的拘束力を持って指導できない。年3回程度、広報「かしはら」に犬や猫の飼

養マナーを掲載し、9月20日からの動物愛護週間パネル展示で犬・猫の飼養マナーの

啓発をしている。餌やりの苦情があれば、猫の飼養マナーリーフレットの回覧や餌やり禁止看板を自治会で設置してもらっている。周知後は奈良県動物愛護管理推進計画に基づき、県中保健所と連携して原因者に指導を行い、餌やりをしない旨の約束を取り付けているが、なかなか変わらない。近隣で京都市と和歌山県が餌やりの禁止条例を制定している。避妊手術を実施した野良猫への餌やりの場として地域住民の同意を受け、責任者等を定め、届け出後にその餌やり場での餌やりが実施できることを定め、これ以外の餌やりは禁止されている。本市は、一自治体での対応より、県で条例制定するほうが効果的であると考え、県へ要望していきたい。

### 無責任なエサやりはやめましょう。

エサをやる愛情があるなら、家で飼うことも考えてみましょう。



餌やらないのなら、産ませないで!!  
ペットに不妊手術を考えましょう  
犬猫は必ずこの願いを。これらの動物が安心して暮らさないようにすること。餌やりの場には繁殖を抑制するための措置をとる責任があります。

餌やり禁止看板

**問** 本市の地域猫の不妊手術に対する補助金制度が市民にあまり伝わっていないと思わ